

# かがくえほん せかい ようこそ！科学絵本の世界へ

「科学」と聞くと、なんだか難しそうと思ってしまう人も  
いるかもしれません。でも、科学って、ほら、こんなに身  
近なものなんです。みなさんの「なぜ？」「どうして？」  
に寄り添ってくれる1冊が見つかりますように。



## 「絵とき ゾウの時間と ネズミの時間」

本川達雄 文 あべ弘士 絵  
福音館書店 NDC 481



## 「算数の呪い」

ジョン・シェスカ 文  
レイン・スミス 絵 青山南 訳  
小峰書店 NDC 933



## 「星座を見つけよう」

H・A・レイ 文/絵  
草下英明 訳 福音館書店  
NDC 440

ネズミのように小さな動物と、ゾウのように大きな動物、それぞれ寿命は違うけれど、生きているうちに心臓を打つ回数は、ゾウもネズミもそして人間もみんな同じ、15億回です。「えっ！」て、今びっくりした人はぜひ読んでみてください。

「たいていのことは、算数の問題としてかんがえられるんですよ」なんて言われたら、算数が苦手な人は真っ青になってしまう？呪いにかけてらしたと思って、一度読んでみてください。日常のいろいろな物事に算数の問題がくっついてきます。じっくり、ゆっくり読みましょう。

星や星座の見方が分かれば、夜空は100倍美しく見えるかもしれません。8月の「ペルセウス座流星群」では、1時間に40この流れ星が見られるといわれています（※）。夜空を見上げるその前に、この本をおすすめします。※参考：国立天文台HP



## 「中をそうぞうしてみよ」

佐藤雅彦+ユーフラテス 作  
福音館書店 NDC 726



## 「ぼくのニセモノをつくるには」

ヨシタケシンスケ 作  
ブロンズ新社 NDC 726



## 「たねのずかん」

高森登志夫 絵 古矢一穂 文  
福音館書店 NDC 726

×線写真を使って、普段見ることができない「中」の部分を見ていく絵本です。絵本「すっぱりめがね」（藤村賢志 作、教育画劇、2019）が好きな人は、きっとこの本も好きになるでしょう。出てくるのは身近な物ばかり。さあ、「中をそうぞうしてみて」ください。想像していた通りかな？

自分のニセモノを作って、やりたくないことを全部ニセモノにやらせよう！と思ったけれど、あれ？ニセモノを作るには自分のことがよく分かっていないと作れないよ。自分って一体なんだろう。みんなは自分のこと、どれだけ分かってる？ニセモノ作りを通して自分自身を細かく分析していく本です。

たね！たね！たね！たくさんの種類のたねが、実物大で描かれています。どのたねも、遠くに飛ばされるためのしくみを持っていて、本書ではその移動のしかた別に分類されています。たねだけではなく、育った後の姿も分かります。今年の夏は、自由研究のテーマに「たね」などいかがでしょうか？

科学の本の良いところは、物語と違って、途中から読んでもいいところ！自分の興味のあるページから読んでみましょう！



ひとりで読んでも、だれかと一緒に読んでも、ちょっとためになってわくわくする本を選びました。ここに紹介しきれなかった本もたくさんあります。図書館でチェックしてね。